

令和5年度 長岡市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和6年5月

長岡市（新潟県）

○計画期間：平成31年4月～令和7年3月（6年0月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点（令和6年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成31年3月に内閣総理大臣の認定を受け、同年4月からスタートした「長岡市中心市街地活性化基本計画（第3期計画）」に基づき、「まちを『つくる』『つかう』から『つなぐ』へ」をテーマに、持続可能な地方都市の再生を図るため、各種事業に取り組んでいる。

本計画の基幹事業である「大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業」については、令和5年度に全体4街区のうち、3街区（A-1、A-2、C街区）が竣工し、「米百俵プレイスマライエ長岡西館」をはじめ、マンション、店舗、クリニック、銀行などが先行オープンを迎えた。ミライエ長岡には、これまでにない新しいスタイルの図書館「互尊文庫」のほか、市内4大学1高専と商工会議所、長岡市が協創事業を展開する「NaDeC BASE」が移転オープンし、人材育成と「長岡版イノベーション」をさらに加速させる産業振興の拠点として、多様な人材が集い、新たな活動や交流が生まれつつある。

また、令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、イベント等のソフト事業も徐々に再開し、中心市街地の商店街では、歩行者天国や歩道空間を活用した飲食イベントが開催されたほか、市内4大学1高専の学生を中心としたグループが企業などと協力し、若者にまちなかの魅力を知ってもらうことを目的に、トークイベントやマルシェなどを開催するなど、まちの魅力や活力を高める新たな取り組みが広がりを見せている。

今後も引き続き計画に位置付けた事業を着実に推進し、各目標の達成に向け、公民が連携して各種事業に取り組んでいきたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度3月31日）

（中心市街地 区域）	平成30年度 （計画前年度）	令和元年度 （1年目）	令和2年度 （2年目）	令和3年度 （3年目）	令和4年度 （4年目）	令和5年度 （5年目）	令和6年度 （6年目）
人口	5,660	5,685	5,596	5,501	5,532	5,567	
人口増減数		25	-89	-95	31	35	
自然増減数		-48	-64	-71	-65	-83	
社会増減数		73	-25	-24	96	118	
転入者数		281	290	210	254	286	

※計画前年度以前の区域の人口増減数等が把握できておらず記載ができないもの。

(2) 地価

(基準日：毎年度1月1日 / 単位：円/㎡)

	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
4 地区前年度比 平均変化率		98.5%	97.7%	98.0%	98.1%	98.9%	
大手通 1-4-3	248,000	244,000	238,000	233,000	229,000	228,000	
台町 2-2-8	114,000	112,000	109,000	106,000	103,000	101,000	
殿町 2-2-6	97,700	96,500	94,800	92,700	90,700	89,200	
表町 1-9-12	106,000	105,000	103,000	102,000	101,000	100,000	

2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第3期計画の5か年計画中の5年目となる令和5年度においては、全74事業の内72事業が実施されており、計画に基づき着実に進捗していると評価する。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により第3期計画を1年延長したことについては、やむを得ない対応であると捉えている。

目標の「まちを『歩く人』を増やす」、「まちに『集う若者』を増やす」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、基準値を下回る傾向が続いていたが、令和5年度は5類移行を受け、賑わい回復の兆しが表れている。また令和5年7月には「米百俵プレイス ミライエ長岡西館」が先行オープンした他、近隣では店舗、マンション、医療施設などが開設され、大手通交差点より西側の公共公益施設利用者数が飛躍的に増大するなど、確実に人流が生まれている。今後は、来街者の回遊性を高める事業や、民間団体との連携によるソフト事業の実施・支援を積極的に行うことで、中心市街地の賑わいづくりの機運を高めていきたい。

また、「まちで『起業する人』を増やす」については、目標起案件数を上回る7件となっており、今後も米百俵プレイス ミライエ長岡西館の先行オープンを契機に、起業関連の講演会やセミナー等のイベント開催等を通じ、まちなかでの起案件数の増加に期待できる。

当協議会では、まちなかで活動するプレイヤーの発掘に向け「まちづくり部会」の運営を通じて、まちに住み、働き、活躍する人々と情報を共有し、新しい取り組みを活発に行っている若者をはじめとした、まちなかで活動する人材の発掘と支援を行うとともに、まちなかの新たな賑わいづくりに繋がる事業を実施していきたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
まちを「歩く人」を増やす	大手通交差点より西側の歩行者・自転車通行量 (平日)(人/日)	24,409 人/日 (H29)	26,652 人/日 (R6)	17,854 人/日 (R5)	C	①	①
まちで「起業する人」を増やす	中心市街地内の起業数 (件/5年)	25 件/5年 (H26～30)	40 件/5年 (R1～6)	29 件/5年 (R5)	B	①	①
まちに「集う若者」を増やす	30代以下のまちなか居住人口(人)	1,656 人 (H29)	1,724 人 (R6)	1,472 人 (R5)	C	①	2
(参考指標)	学生限定のバスサービス利用者数(人)	78,881 人 (H29)	80,419 人 (R5)	—	—	—	—

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

大手通交差点より西側の歩行者・自転車通行量については、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限の影響により、大幅な減少傾向を示していたが、令和5年度は増加傾向に転じている。

これは、「大手通坂之上町地区市街地再開発事業」により整備を進めてきた「米百俵プレイス ミライエ長岡西館」をはじめ、店舗、マンション、クリニック、銀行などが令和5年夏に先行オープンしたことや、これまで中止や延期を余儀なくされてきたイベントなどが再開し、まちなかに人が集い、活動や交流の機会が増加したことによるものと推測される。

また、「米百俵プレイス ミライエ長岡西館」の先行オープンを契機に、周辺では、新たに飲食店、フィットネス、コワーキングスペース、オフィスなどが立地するなど、まちなかへの民間投資の動きが見え始めている。

今後、「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点に、様々な事業が本格的に展開することにより、交流や活動を促進し、民間による新規出店等を誘発することで、まちの回遊性が広がると推測されることから、目標達成は可能と見込まれる。

中心市街地の起業数については、長岡市内の4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市の「N a D e C 構想」に基づく段階的な起業支援事業「ファーストペンギンプログラム」や、起業支援セ

ンターCLIP長岡を主体とした女性や若者向けの起業イベントを継続して実施してきたことや、起業相談の体制を強化したことにより、令和5年度は7件もの起業が成立した。

今後も引き続き、起業関連の講演やセミナーの開催、外部有識者によるメンタリング、ビジネスアイデアの事業化支援等を強化するほか、スタートアップの推進に向けたアドバイザーとして地域活性化起業人を活用し、支援を強化するなどの対策を講じることで、さらなる起業家数の増加につながるものと想定しており、目標達成は可能と見込まれる。

30代以下のまちなか居住人口については、新型コロナウイルス感染症の影響による外国人労働者などの転出や、若者の結婚や出産を控える傾向から、令和2年度から令和3年度にかけて居住人口は年々減少していたが、令和4年度以降、微増に転じた。これは、大手通坂之上町地区市街地再開発事業などによる民間のマンション供給や「まちなか居住区域定住促進事業」の固定資産税の免除制度により、若者が中心市街地に転入しやすい環境整備が進んでいることが起因している。

一方で、当初予定していた「若者のまち居場所づくり推進事業①」は、現時点で住宅供給の見通しが立っていないことや、新たなマンション供給も見込めないことから、現状では目標達成は厳しい状況となっている。

今後は、引き続き「まちなか居住区域定住促進事業」を継続し、若者の中心市街地への転入に対する支援を継続するとともに、「米百俵プレイス ミライエ長岡」の整備を着実に進め、公民が連携して中心市街地全体の魅力を高め、若者にも住みよいまちづくりを進めることで、居住人口の増加につなげていく必要がある。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「30代以下のまちなか居住人口」

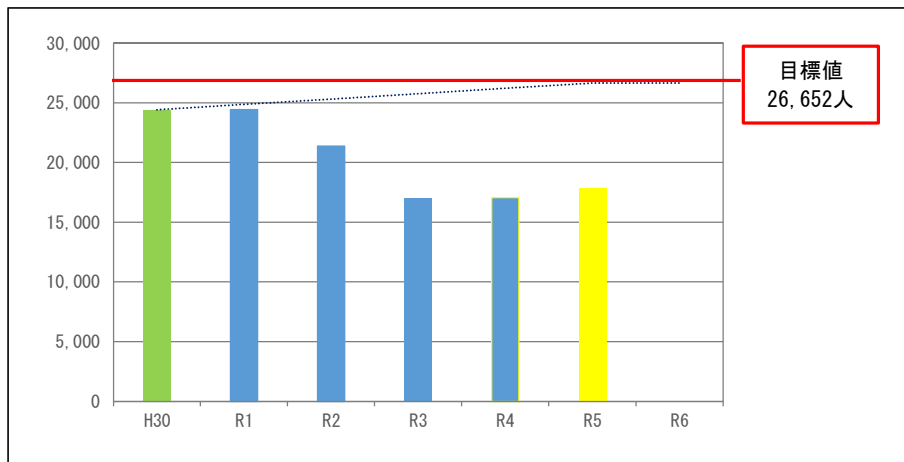
目標達成見通しについては、令和5年度定期フォローアップにおいては、市街地再開発事業によるマンション供給や、「米百俵プレイス ミライエ長岡」の整備により、若者にも住みやすいまちづくりが進展し、目標達成が見込まれる(①)と考えていたが、大手通坂之上町地区市街地再開発事業によるマンション供給後も大幅な改善に至らなかったことや、当初予定していた「若者のまち居場所づくり推進事業」が、居住スペースの整備まで至らなかったことから、目標達成が見込まれない(②)と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「大手通交差点より西側の歩行者・自転車通行量（平日）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 63～P. 67 参照

●調査結果と分析



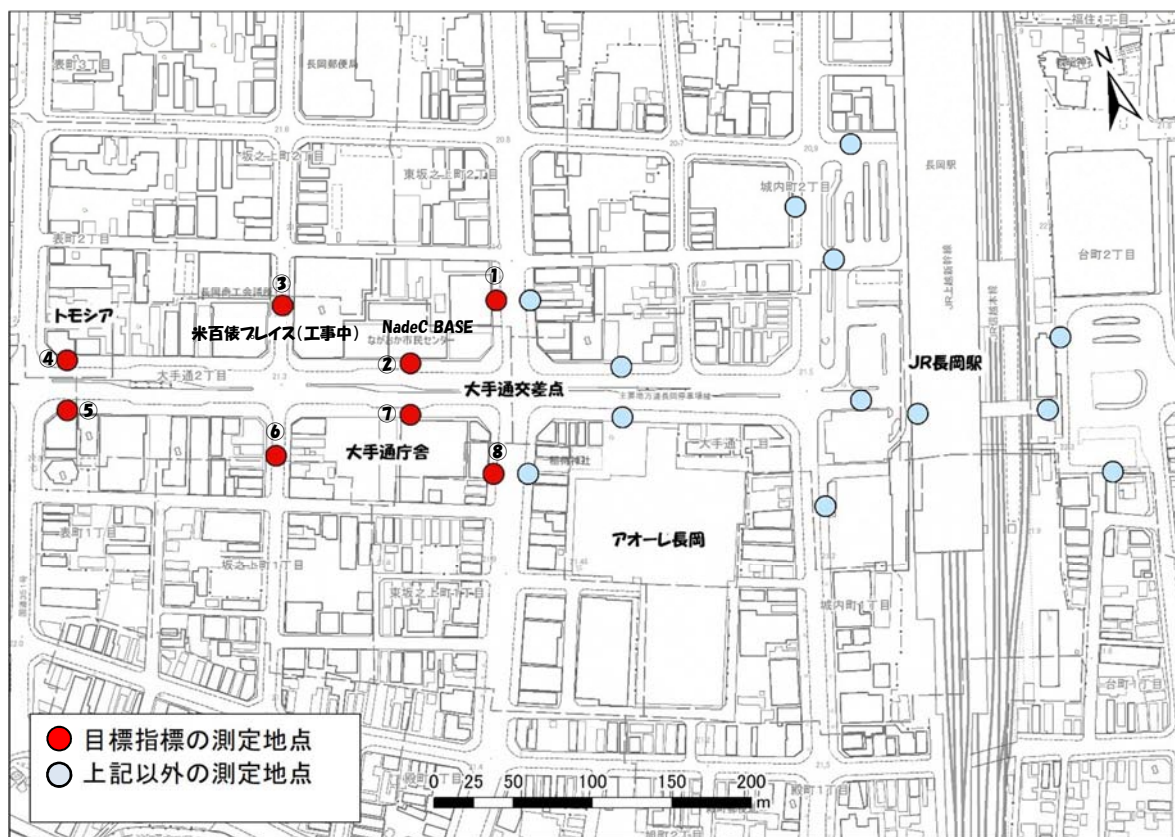
年	(単位)
H30	24,409 (基準年値)
R1	24,435
R2	21,357
R3	17,056
R4	17,046
R5	17,854
R6	26,652 (目標値)

※調査方法：平日の午前7時から午後8時までの通行量を測定

※調査月：各年10月

※調査主体：長岡市

※調査対象：中心市街区域内のうち、大手通交差点から西側の計8カ所における自転車及び歩行者



(単位：人)

	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
① 旧三井生命ビル前	2,092	2,153	2,247	2,084	1,840	1,840	
② 市民センター前	4,864	4,380	4,274	3,197	2,800	3,281	
③ 旧長岡商工会議所前	2,801	3,436	2,240	1,388	2,072	2,219	
④ ながおか町口御門前	2,806	2,704	2,631	3,083	2,795	3,439	
⑤ ショップイン大手前	2,830	2,916	2,466	1,893	2,067	1,790	
⑥ 旧メンズショップバートン前	1,624	1,852	1,331	1,029	1,064	748	
⑦ フェニックス大手イースト前	5,445	5,095	4,408	2,985	3,023	3,094	
⑧ いろはにほへと前	1,947	1,899	1,760	1,397	1,385	1,443	
合計	24,409	24,435	21,357	17,056	17,046	17,854	

〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量については、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、大幅な減少傾向を示していたが、令和5年度には増加傾向に転じている。特に、調査地点「市民センター前」及び「ながおか町口御門前」については、前年比で約2割増加しており、「大手通坂之上町地区市街地再開発事業」により整備を進めてきた「米百俵プレイス ミライエ長岡西館」をはじめ、店舗、マンション、クリニック、銀行などが令和5年夏に先行オープンした影響によるものと推測される。

一方で、調査地点「ショップイン大手前」及び「旧メンズショップバートン前」については、昨年度から減少しており、先行オープンに伴い、歩行者・自転車の移動経路が変わった影響によるものと推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業（独立行政法人都市再生機構、長岡市）

事業実施期間	平成29年度～令和7年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により、公共公益、業務、商業施設、集合住宅、駐車場等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】266人 【最新値】308人 4街区から構成される米百俵プレイスのうち3街区（プレミスト大手通（A-1街区）、西館（A-2街区）、北館（C街区））の施設建築物が令和5年度に竣工し、米百俵プレイス東館（B街区）の建設工事に令和6年3月から着手する。
事業の今後について	令和6年3月から東館（B街区）建設工事に着手し、令和8年度竣工予定。

②. まちなか図書館（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	平成30年度～令和7年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、図書館機能を含む複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年度～令和元年度） ②都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】920人/日 【最新値】2,326人/日（産学連携情報交流センター（仮称）整備事業分を含む） 令和2年度に策定した「米百俵プレイス（仮称）人づくり・学び・交流エリアまちなか図書館（機能）基本計画」に基づき、令和4年度は選書作業を行い、令和5年7月22日に西館が先行オープンした
事業の今後について	令和5年6月に西館の建築工事が完了し、令和6年3月から東館の建築工事に着手した。令和3年度に策定した「米百俵プレイス ミライエ長岡 まちなか図書館（互尊文庫）サービス計画」に基づき、令和8年の全館開館に向け準備を進める。

③. 産学連携情報交流センター（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、地元産業の開発・研究・情報発信等の拠点となる施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（令和元年度） ②都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】656人/日 【最新値】2,326人/日（まちなか図書館（仮称）整備事業分を含む） 令和元年度に委託した実施設計に基づき、令和4年度は市の商工担当部署で、求められる機能や運営体制を検討し、令和5年7月22日に西館が先行オープンした。
事業の今後について	本事業により整備したNaDeC BASEを拠点に、市内4大学1高専や産業界の関係者が集い、若者の起業・創業や産業ビジネスの支援に取り組んでいく。

④. トモシア交流支援事業（社会福祉法人長岡市社会福祉協議会、長岡市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	社会福祉センタートモシアで市民の交流の場を提供するとともに、ボランティア活動を支援し広く発信する。

国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成31年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	<p>【目標値】34人/日 【最新値】30人/日</p> <p>新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症になったこともあり、令和5年度の利用者数は回復傾向であった4年度からさらに増加し、全体の利用者数は53,466人で、4年度の39,572人と比較して約35%の増加となった。コロナ禍では社会福祉活動の停滞とともに利用者数も減少していたが、社会福祉活動の再開にあたり、「トモシア」が福祉・交流の拠点に戻りつつあることが推察できる。</p> <p>また、令和5年度のトモシア内のボランティアセンターにおけるボランティア相談件数は899件で、4年度の883件と比較して若干の増加となった。</p> <p>同じく新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症になったことや、令和6年能登半島地震の発生により、ボランティア活動の機運が高まっていることが窺える。</p> <p>一方で、社会的に生きづらさを抱える人の社会参加や居場所づくり、生活困窮者の就労へ向けた一歩としての活動に関する相談が年々増えており、コーディネートする上での幅広い見識が求められている。</p>
事業の今後につ いて	<p>引き続き、市民に広く受け入れられる施設を目指し、指定管理者と協議しながら、世代に応じた情報発信や、新しい生活様式を実施しながらも交流できるようなプログラムを検討するとともに、来館者に対する接遇向上に努めていく。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者・自転車通行量については、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限の影響により、大幅な減少傾向を示していたが、令和5年度は増加傾向に転じている。

これは、「大手通坂之上町地区市街地再開発事業」により整備を進めてきた「米百俵プレイス ミライエ長岡西館」をはじめ、店舗、マンション、クリニック、銀行などが令和5年夏に先行オープンしたことや、これまで中止や延期を余儀なくされてきたイベントなどが再開し、まちなかに人が集い、活動や交流の機会が増加したことによるものと推測される。

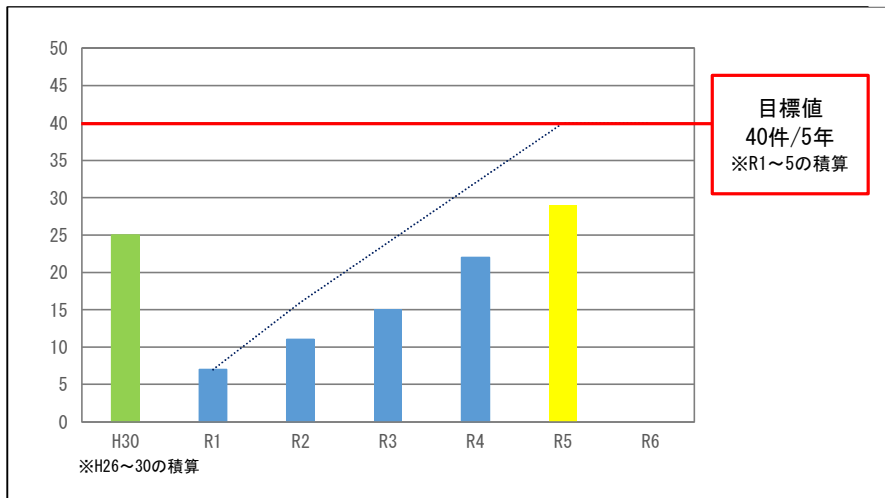
また、「米百俵プレイス ミライエ長岡西館」の先行オープンを契機に、周辺では、新たに店舗、飲食店、フィットネス、コワーキングスペース、オフィスなどが立地するなど、まちなかへの民間投資の動きが見え始めている。

今後、「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点に、様々な事業が本格的に展開することにより、交流や活動を促進し、民間による新規出店等を誘発することで、まちの回遊性が広がると推測されることから、目標達成は可能と見込まれる。

(2)「中心市街地内の起業数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 70 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26 ~30	25 (基準値)
R1	7
R2	11
R3	15
R4	22
R5	29
R6	40 (目標値)

※調査方法：長岡市、ながおか・若者・しごと機構及び起業支援センターながおか相談者へのヒアリング

※調査月：平成31年4月～令和6年3月の5年間の累計（毎年度3月末調査）

※調査主体：長岡市

※調査対象：中心市街地区域内での起業者

〈分析内容〉

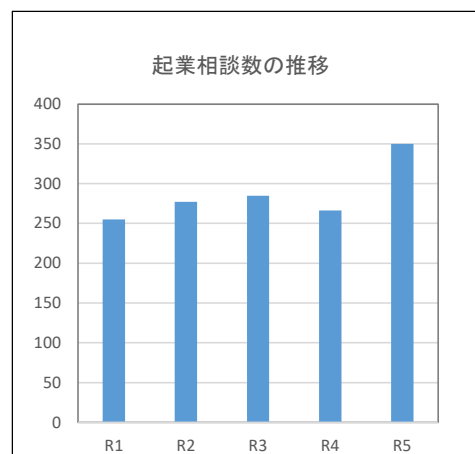
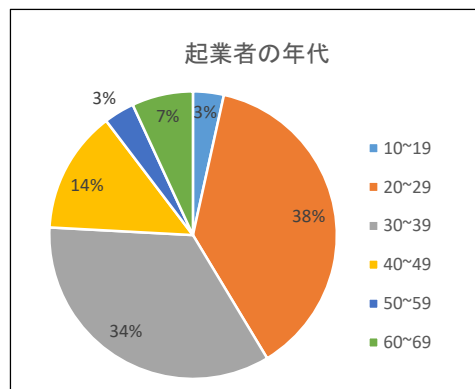
中心市街地内の起業数は、令和5年度は7件で、令和4年度と同数となっている。

令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、経済状況が見通せない中、起業数は4件にとどまったものの、それ以外の年度では、各年で7件の起業が生まれており、着実に増加している。

起業者の年代は、20代及び30代が全体の約6割を占めており、若い世代の割合が多い。

これは、長岡市内の4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市の「N a D e C構想」に基づく段階的な起業支援事業「ファーストペンギンプログラム」による支援のほか、起業支援センターCLIP長岡を主体とした女性や若者向けの起業イベントを継続的に実施するなど、様々な起業支援を強化してきたことによるものと推測する。

また、CLIP長岡における起業相談件数については、R1～R4までは平均約270件とほぼ横ばいで推移してきたが、令和5年度に相談体制を強化した影響もあり、約80件増加し、350件と大幅に増加しており、今後もさらに起業者数が増加していくものと推測する。



●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. NaDeC構想先行実施事業（NaDeC構想推進コンソーシアム、
市内4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業への導入を検討するNaDeC構想について、既存施設で先行的に実施して検証を行う。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府） （令和元年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【目標値】10件/5年</p> <p>【最新値】6件/5年（コワーキングスペースの新規利用者数は把握できないため、ものづくり工房のみの新規利用者数から算定）</p> <p>平成30年6月から先行実施施設NaDeC BASE を開設し、事業を実施。市内4大学1高専の学生教職員を中心に地域企業関係者や市民の利用が新たに発生している。</p> <p>平成30年度NaDeC BASE 利用者数18,436名 （うちものづくり工房新規利用者数13名）</p> <p>令和元年度NaDeC BASE 利用者数16,000名 （うちものづくり工房新規利用者数55名）</p> <p>令和2年度NaDeC BASE 利用者数3,354名（7か月） （うちものづくり工房新規利用者数43名）</p> <p>令和3年度NaDeC BASE 利用者数4,999名 （うちものづくり工房新規利用者数50名）</p> <p>令和4年度NaDeC BASE 利用者数7,208名 （うちものづくり工房新規利用者数83名）</p> <p>令和5年度NaDeC BASE 利用者数6,591名 （うちものづくり工房新規利用者数125名）</p>
事業の今後について	<p>令和5年7月にNaDeCBASEが中心市街地のミライエ長岡に移転。新たな可能性を見出す産業支援、人材育成、交流事業を実施。</p> <p>市民や事業者など多様な人が出入りする立地の利点や、併設する「起業支援センターながおかclip」と連携して、学生や市民のスタートアップの機運醸成を図りたい。</p>

②. 若者チャレンジショップ事業（ながおか・若者・しごと機構）

事業実施期間	平成30年度～令和元年度【完了】
事業概要	起業を目指す若者を支援するため、体験出店、セミナー、個人相談を実施する。
事業目標値・最新値及び進捗状況	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成31年4月～令和元年10月）
事業効果及び進	【目標値】3件/5年

<p>捗状況</p>	<p>【最新値】0件/5年 <令和元年度実施事業> ○若者チャレンジショップ in 五・十の市 五・十の市におけるお試し出店の機会を提供 支援内容：出店経費補助、出店に係る備品貸与 出店者：3人 ○若者チャレンジショップ出店講座 起業支援センターながおか clip への業務委託により、講義とまちなかでのお試し出店をセットにした講座（全4回）を開催 第1回：出店計画セミナー（受講者：8人） 第2回：お試し出店（出店者：8人） 第3回：課題振り返りセミナー（受講者：6人） 第4回：リベンジ出店（出店者：6人） ○若者チャレンジショップ in 米百俵まつり 米百俵まつりにおけるお試し出店の機会を提供 支援内容：出店経費補助 出店者：5人 <事業効果> ・中心市街地での起業・出店者1人 ・中心市街地における起業マインドの醸成</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>ネット通販の浸透など消費行動の変化に伴い、店舗型の起業・出店のニーズは年々低下し、参加者も固定化しているため、チャレンジショップ事業としての支援は令和元年度で終了した。現在、若者の起業・創業は「若者提案プロジェクト実現事業」等によって店舗型に限らず幅広く支援しており、今後も継続していく。</p>

③. 学生起業家育成事業（長岡市、長岡商工会議所、起業支援センターCLIP長岡、市内金融機関）

<p>事業実施期間</p>	<p>平成30年度～【実施中】</p>
<p>事業概要</p>	<p>NaDeC BASE をメイン会場に、学生の起業創業のサポートを行う。</p>
<p>国の支援措置名及び支援期間</p>	<p>地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～4年度） デジタル田園都市国家構想交付金（令和5年度～6年度）</p>
<p>事業目標値・最新値及び進捗状況</p>	<p>【目標値】2件/5年 【最新値】5件/5年 <学生起業家育成事業による起業件数>（○）が中心市街地 H30年度：1件 ・拾壺・ビッグストーン株式会社 R1年度：2件 ・ベイビーチャップリン（○）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社サケアイ <p>R2年度：5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社プロッセル ・株式会社 THE TWO ・株式会社雷神（○） ・すまいるカフェ ・合同会社発酵を科学する研究所 <p>R3年度：3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社パンタレイ ・Rural Reading（ルラルリーディング） ・株式会社スタイルアーツ（○） <p>R4年度：3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペえペえでざいん ・暮らしの雑貨店 HOPI（○） ・合同会社サトラボ <p>R5年度：3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社 FieldWorks ・でざいんのむすびめ ・株式会社 nexfare（○）
<p>事業の今後について</p>	<p>起業関連の講演やセミナーの開催により起業の機運醸成・学習機会の提供を行うとともに、外部有識者によるメンタリングを実施しビジネスアイデアの事業化を支援する。事業化の際には学生起業家育成補助金を支給し、資金的な援助を行う。起業後についても、定期的・継続的に事業実施状況を確認し、成長につながる支援を実施する。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和5年度の中心市街地内における起業数は、昨年度と同数の7件であった。

長岡市内の4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市の「N a D e C構想」に基づく段階的な起業支援事業「ファーストペンギンプログラム」や、起業支援センターCLIP長岡を主体とした女性や若者向けの起業イベントを継続して実施してきたことや、起業相談の体制を強化したことにより、年度ごとに増減はみられるものの「まちで起業する人」は、着実に増加している。

今後も引き続き、起業関連の講演やセミナーの開催、外部有識者によるメンタリング、ビジネスアイデアの事業化支援等を強化するほか、スタートアップの推進に向けたアドバイザーとして地域活性化起業人を活用し、支援を強化するなどの対策を講じることで、さらなる起業家数の増加につながるものと想定しており、目標達成は可能と見込まれる。

(3) 「30代以下のまちなか居住人口」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 71～P. 75 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H29	1,656 (基準年値)
H30	1,605
R1	1,646
R2	1,502
R3	1,450
R4	1,460
R5	1,472
R6	1,724 (目標値)

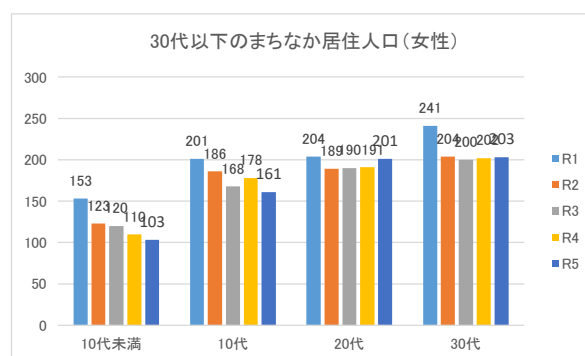
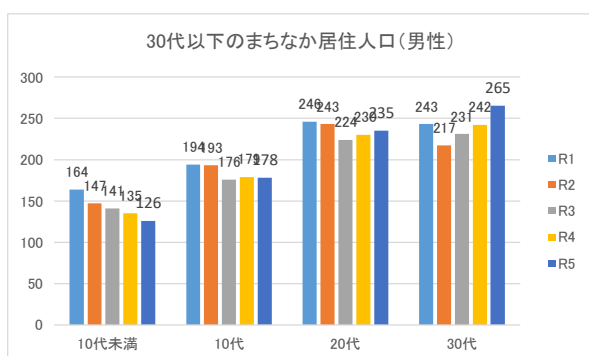
※調査方法：住民基本台帳

※調査月：各年度3月末時点

※調査主体：長岡市

※調査対象：中心市街地区域内の39歳以下の人口

〈分析内容〉



・30代以下のまちなか居住人口は、新型コロナウイルスの影響による外国人労働者の転出や出生率の伸び率の影響等により、令和2年度から3年度にかけて減少傾向を示していたが、令和4年度から令和5年度にかけて、大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業などにより2棟のマンションが竣工した影響により、居住人口は微増傾向に転じた。

・年代別では、30代男性で増加傾向となっているものの、特に10代未満は男女ともに、依然として減少傾向を示しており、少子化等の影響を大きく受けているものと推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業（独立行政法人都市再生機構、長岡市）

事業実施期間	平成29年度～令和7年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により、公共公益、業務、商業施設、集合住宅、駐車場等を整備する。

国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】33人 【最新値】38人 4街区から構成される米百俵プレイスのうち3街区（プレミスト大手通（A-1街区）、西館（A-2街区）、北館（C街区））の施設建築物が令和5年度に竣工し、米百俵プレイス東館（B街区）の建設工事に令和6年度から着手する。
事業の今後について	令和6年度から東館（B街区）建設工事に着手し、令和8年度竣工予定。

② 若者のまち居場所づくり推進事業①（長岡市、民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【完了】
事業概要	旧柳原分庁舎敷地を活用し、若者が居住できる環境を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	民間資金等活用事業調査費補助事業（内閣府） （令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】50人 【最新値】0人 令和2年度は、「PFI等の導入可能性調査業務委託」を簡易評価型プロポーザル方式により実施。委託業者を中心に、市内4大学1高専の学生を対象としたアンケートやワークショップなどのニーズ調査のほか、民間事業者向けの意向調査も実施し、敷地活用の方向性について調査を行った。 令和3年度は、活動をするうえで必要な電気・水道のインフラ整備を行い、事業の推進と機運醸成、敷地の利用価値を高めるための環境を整えた。 令和4年度及び令和5年度は、NPO法人が主催して当該敷地を会場にした活動を2回開催。大学生を対象としたまち歩き、ワークショップのほか大学生が企画した地域住民も参加する雪を楽しむイベントを実施した。
事業の今後について	引き続き、「若者の活動」や「地域の交流」を目的としたイベントやワークショップ等で土地を活用してもらい、価値や認知度を高めていながら、現在整備中の「米百俵プレイス」の完成も見据えた敷地の活用に向けた検討を進めていく予定である。

③ まちなか建物更新等支援事業（まちづくりを目指す団体、民間事業者、長岡市）

事業実施期間	平成28年度～令和7年度【実施中】
事業概要	老朽建築物や空き地の共同化による市街地環境の整備・改善を行う事業者を支援する。

国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国交省） （平成29年～令和5年） [認定基本計画：国の支援措置なし]
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】28人 【最新値】0人 優良建築物等整備事業を進めている1地区（大手通界限D地区）では、基本設計が完了し、事業化に向けて準備を進めている。 また、中心市街地活性化基本計画区域において建築後30年が経過した老朽化した建物が増えてきており、共同化による建替支援を検討する市民からの問い合わせが増加している。
事業の今後について	1地区（大手通界限D地区）では、令和7年度以降に実施設計、除却工事、建設工事の実施を予定しており、竣工に向けて引き続き支援を行う。

④. まちなか居住区域定住促進事業（長岡市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	まちなかへの転入者等が住宅を購入等して居住する場合、固定資産税を免除する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 41人／事業期間 「まちなか居住区域定住促進事業」等の効果により中心市街地へ入居する子育て世帯を10世帯 世帯人数を4.1人（長岡市内の未就学児、小学生の兄弟数の平均2.1人＋両親） として、10世帯×4.1人＝41人 ※長岡市中心市街地活性化基本計画＜第3期計画 参照＞ 【最新値】 平成30年 申請期間 平成30年4月1日～平成31年1月31日 中活エリア 3人（2世帯）うち、39歳以下 0人（0世帯） 令和元年 申請期間 平成31年2月1日～令和2年1月31日 中活エリア 12人（8世帯）うち、39歳以下 1人（1世帯） 令和2年 申請期間 令和2年2月1日～令和3年1月31日 中活エリア 0人（0世帯）うち、39歳以下 0人（0世帯） 令和3年 申請期間 令和3年2月1日～令和4年1月31日 中活エリア 4人（1世帯）うち、39歳以下 3人（1世帯） 令和4年 申請期間 令和4年2月1日～令和5年1月31日 中活エリア 6人（5世帯）うち、39歳以下 2人（2世帯） 令和5年 申請期間 令和5年2月1日～令和6年1月31日

	<p>中活エリア 13人(6世帯)うち、39歳以下 7人(5世帯) 計 38人(22世帯) 計 13人(9世帯)</p> <p>【事業進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地で当事業を活用した人の傾向をみると、対象住宅は「分譲マンションの購入」によるものが95%と大多数を占め、年齢層は、目標指標である39歳以下の方よりも、40歳以上の方のほうが多い。 ・また、当事業を活用する子育て世帯は、通学や居住空間の広さ、住宅の価格帯などの面から、中心市街地以外のまちなか居住区域内を選択する傾向が強く、目標値の3割の達成に留まる。
事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の利用者を増やすため、今後、様々な方法で情報発信を行うほか、都市機能誘導について検討し、中心市街地を始めとした、まちなか居住区域への定住を促進していきたい。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の影響による外国人労働者などの転出や、若者の結婚や出産を控える傾向から、令和2年度から令和3年度にかけて居住人口は年々減少していたが、令和4年度以降、微増に転じた。これは、大手通坂之上町地区市街地再開発事業などによる民間のマンション供給や「まちなか居住区域定住促進事業」の固定資産税の免除制度により、若者が中心市街地に転入しやすい環境整備が進んでいることが起因している。

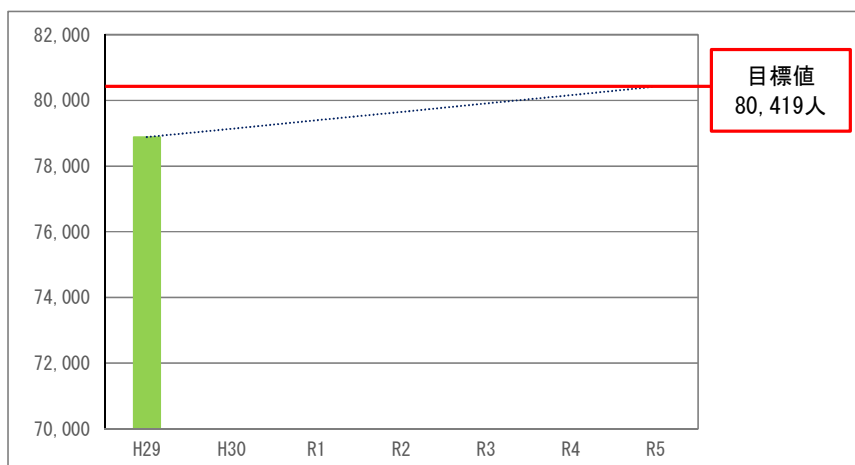
一方で、当初予定していた「若者のまち居場所づくり推進事業①」は、現時点で住宅供給の見通しが立っていないことや、計画期間内で新たなマンション供給が見込めないことから、現状では目標達成は厳しい状況となっている。

今後は、引き続き「まちなか居住区域定住促進事業」を継続し、若者の中心市街地への転入に対する支援を継続するとともに、「米百俵プレイス ミライエ長岡」の整備を着実に進め、公民が連携して中心市街地全体の魅力を高め、若者にも住みよいまちづくりを進めることで、居住人口の増加につなげていく必要がある。

(参考指標) 学生限定のバスサービス利用者数

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 74~P. 75 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H29	78,881 人 (基準年値)
R5	80,419 人 (目標値)

※調査方法：「ちょい乗りバス券」及びN a D e C構想事業シャトルバス等利用者の実数

※調査月：各年度4月から3月までの累計

※調査主体：長岡市

※調査対象：「ちょい乗りバス券」利用者及びN a D e C構想事業シャトルバス等を利用する学生

※学生交流「ちょい乗りバス券」実証実験事業が早期完了しており、最新のバス利用者数が測れないことから最新値を表示できないもの。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちなか図書館（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	平成30年度～令和7年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、図書館機能を含む複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年度～令和元年度） ②都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】802人/年 令和2年度に策定した「米百俵プレイス（仮称）人づくり・学び・交流エリアまちなか図書館（機能）基本計画」に基づき、令和4年度は選書作業を行い、令和5年7月22日に西館が先行オープンした。 西館の事業完了時にはミライエ全体で146,100人の年間利用者数を見込んでいたところ、301,750人の見込値となっている。
事業の今後について	令和5年6月に西館の建築工事が完了し、令和6年3月から東館の建築工事に着手した。令和3年度に策定した「米百俵プレイス ミライエ長岡 まちなか図書館（互尊文庫）サービス計画」に基づき、

	令和8年の全館開館に向け準備を進める。
--	---------------------

② 産学連携情報交流センター（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、地元産業の開発・研究・情報発信等の拠点となる施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	① 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（令和元年度） ② 都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】736人/年 令和元年度に委託した実施設計に基づき、令和4年度は市の商工担当部署で、求められる機能や運営体制を検討し、令和5年7月22日に西館が先行オープンした。 西館の事業完了時にはミライエ全体で146,100人の年間利用者数を見込んでいたところ、301,750人の見込値となっている。
事業の今後について	本事業により整備したNaDeC BASEを拠点に、市内4大学1高専や産業界の関係者が集い、若者の起業・創業や産業ビジネスの支援に取り組んでいく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

アオーレ長岡、まちなかキャンパス、トモシアなどの中心市街地の公共施設利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、イベントなどの延期や中止が余儀なくされ、令和2年度に大幅に減少したが、その後はイベントや活動が徐々に再開し、令和5年度にかけて増加傾向を示している。令和5年7月には米百俵プレイス ミライエ長岡西館が先行オープンし、「互尊文庫」や「NaDeC BASE」には、連日多くの若者が集い、多様な活動や交流が行われている。

今後、「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点に、様々な事業を本格的に展開するとともに、「学生イベント参加交通費補助事業」の実施により、中心市街地から離れた場所に立地する市内の大学、高専、専門学校の学生が中心市街地に来る際のバス運賃や駐車料金等を補助することで、集う若者の増加につなげていく必要がある。